

口頭発表

保育園における馬介在教育プログラムの試み

中川美和子*

NPO ヨナグニウマふれあい広場沖縄本島支部・うみかぜホースファーム

Equine assisted education program in the nursery schools of Okinawa

NAKAGAWA Miwako*

緒言

当団体は沖縄の在来馬ヨナグニウマの保存と活用を目的に与那国島と沖縄本島で活動し、馬介在教育プログラムもヨナグニウマ活用法の一環として行っている。沖縄本島では2008年から保育園における馬介在教育の試みを始め、今年で8年目に入る。馬を用いて、五感を十全に活用する身体的体験、生き物の温もり・生命を感じ、思いやりの心を育てることを目的に、年12回の継続的なプログラムを実施している。

方法

馬介在教育プログラムは、保育園の園庭または公園、牧場等で実施する。プログラム時間は約90～120分。使用する馬は2頭のヨナグニウマで、対象人数は20名～60名である。20名を超える場合は複数のグループに分けて実施する。

全体の挨拶から始まり、馬の紹介(名前、性別、年齢)、馬との「お約束」の説明、手からのニンジンあげ、乗馬とふれあい(観察)、挨拶、という流れで行う。インストラクター、リーダー、サイドウォーカー合わせて、最低でも馬の頭数の2倍プラス1名の人員を必要とする。乗馬の対象年齢は3歳以上とし、年齢に合わせて「馬にまたがる(動かない)」「馬に乗って歩く」「馬に乗って歩きサイドウォーカーと片手タッチをする」など段階的に難易度を上げ、最高年齢(6歳)では「馬に乗って走る(速歩)」を最終目標にしているが、その目的は乗馬技術の向上ではな

く、あくまで大型動物とのふれあいや乗馬を通じて得られる成功体験や自信、馬に対する気遣いや感謝、思いやりの心を育てることにある。

3歳以下の年齢では馬の観察、ふれあい、ニンジンあげを段階的に行う。スタッフは、「楽しみながらの体験学習」を常に念頭に置き、子供が馬に恐怖を覚える場合は無理をさせず、子供の心に寄り添った適切な声かけをするよう心がけている。

介在教育に使用する馬は自家生産のヨナグニウマで、誕生時から馴致・調教を行い、人とのコミュニケーションにストレスを感じない馬に育てている。ワクチン接種や駆虫等の健康管理も万全である。プログラム実施前に体調チェックを行い、体調の悪い馬は使用しない。プログラム中に馬に疲労やストレスがある場合は、休憩の時間を取り気分転換をさせる。また馬のストレス軽減のため、飼養環境は放牧を中心とし、自由に移動・採草できる環境を維持している。

結果と考察

本プログラムは2008年の開始以来、5つの保育園で8年間実施しており、一定の評価を得ている。月に1回、同じ保育園に何年も通い続けていると、2歳頃から6歳頃までの同じ子供たちを見続けることができ、馬に接する態度の成長ぶりに毎年驚かされている。プログラムの効果は実感としてあるものの、その効果を一般の人にどのように提示し、理解を得るのが常につきまとう課題である。

*連絡先: umikazehf@yahoo.co.jp